

こども食堂における食育推進・生活習慣改善支援と
幼児・学童期からの生活困窮世帯への関わりに関する調査
【集計結果】

*計 440 名から回答ありましたが、
「1. 私はアンケートに協力します」にチェックくださった方 387 件の集計です。

このたびは、調査にご理解・ご協力くださりありがとうございます。

遅くなりましたが、集計結果について報告します。

私たちは、生活困窮者と次世代家族への健康管理支援における保健師の役割について検討してきました。これまでの調査で、生活困窮家庭で育つも経済的自立できた後、糖尿病の診断・腎透析となった方の後悔を把握してきたことが契機です。生活困窮と糖尿病等重症化の連鎖の基底には、不適切な生活習慣があります。逆に食行動の選択のリテラシー、セルフケア能力を獲得すれば「貧困と疾病」の負の連鎖を断つことができます。生涯を通じた生活習慣改善とセルフケア能力獲得に向け、幼児・学童期から関わる必要性から、こども食堂における幼児・学童期からの食育推進・生活習慣改善支援に関して、まずはこども食堂運営団体の皆様からご意見をいただく調査をしました。

ただし生活困窮者に限らずすべての幼児・学童期からの食育推進・生活習慣改善支援に関する回答をお願いしました。こどもに限らず全年代に対する地域食堂としての運営についても記載くださるなど、様々な立場からの実践・意見を頂戴し、私たちの視野が広がりました。

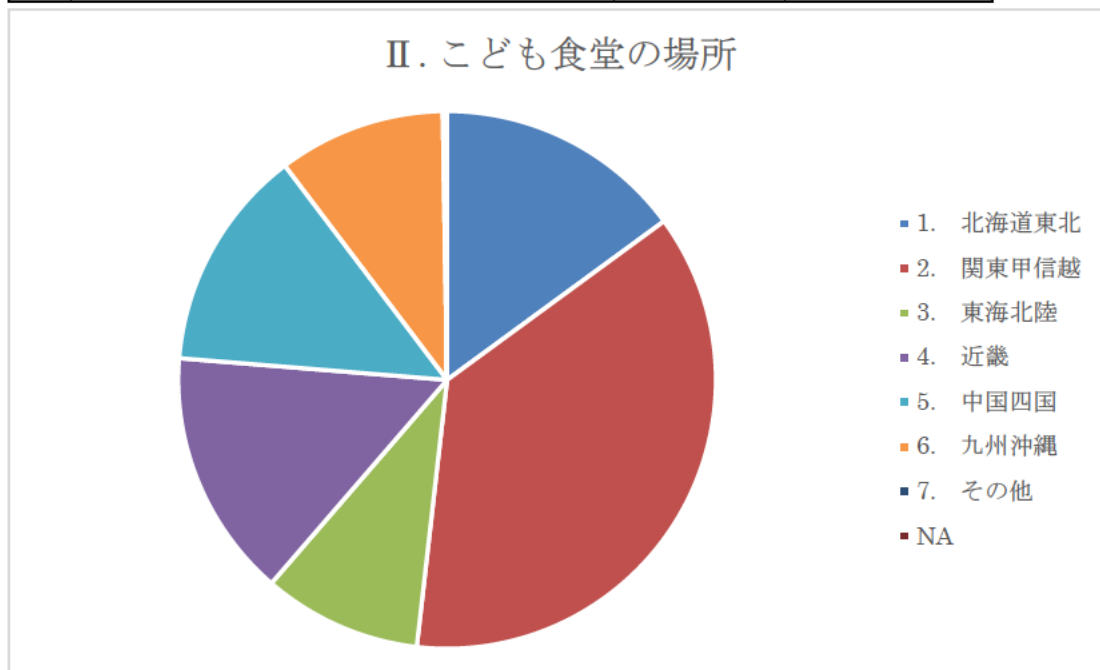
お礼も含めて、ここに調査結果について報告します。

I. 回答の同意		回答者数	回答者率
	1. 私はアンケートに協力します。	388	88.4
	回答無	52	11.8
	合計	440	100.0

問1 貴団体が運営するこども食堂についてお尋ねします。

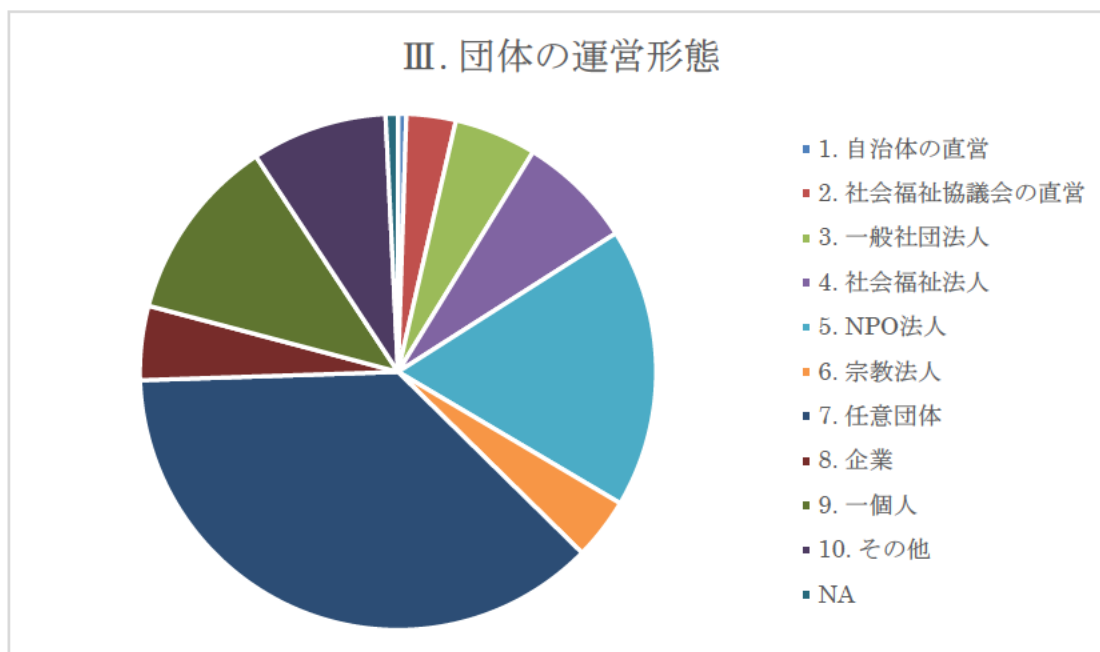
(1) こども食堂の場所についてお答えください。

Ⅱ. こども食堂の場所		回答者数	回答者率
1.	北海道東北	58	14.9
2.	関東甲信越	143	36.9
3.	東海北陸	37	9.5
4.	近畿	58	14.9
5.	中国四国	52	13.4
6.	九州沖縄	39	10.1
7.	その他	1	0.3
	回答無	0	0.0
	合計	388	100.0



(2) 貴団体の運営形態について当てはまるものを1つお選びください。

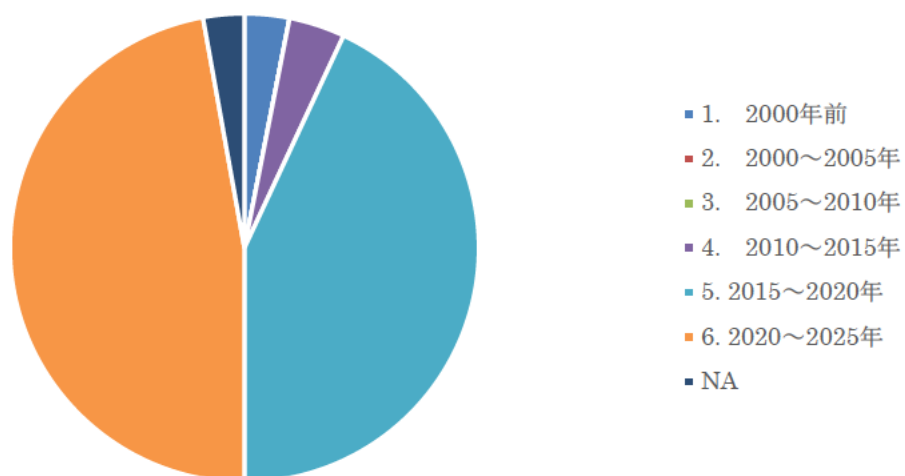
Ⅲ. 団体の運営形態		回答者数	回答者率
1.	自治体の直営	2	0.5
2.	社会福祉協議会の直営	12	3.1
3.	一般社団法人	20	5.2
4.	社会福祉法人	28	7.2
5.	NPO 法人	68	17.5
6.	宗教法人	15	3.9
7.	任意団体	144	37.1
8.	企業	18	4.6
9.	一個人	45	11.6
10.	その他	33	8.5
	回答無	3	0.8
	合計	388	100.0



(3) こども食堂設立年についてご記入ください。 西暦()年

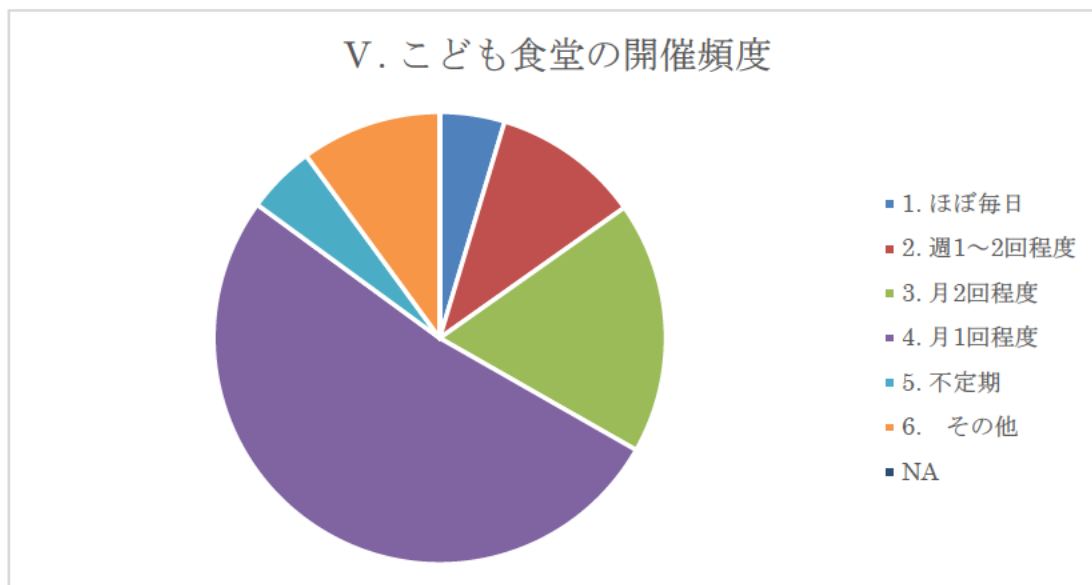
IV. こども食堂設立年		回答者数	回答者率
1.	2000 年前	12	3.1
2.	2000～2005 年	0	0.0
3.	2005～2010 年	0	0.0
4.	2010～2015 年	15	3.9
5.	2015～2020 年	167	43.0
6.	2020～2025 年	183	47.2
	回答無	11	2.8
	合計	388	100.0

IV. こども食堂設立年



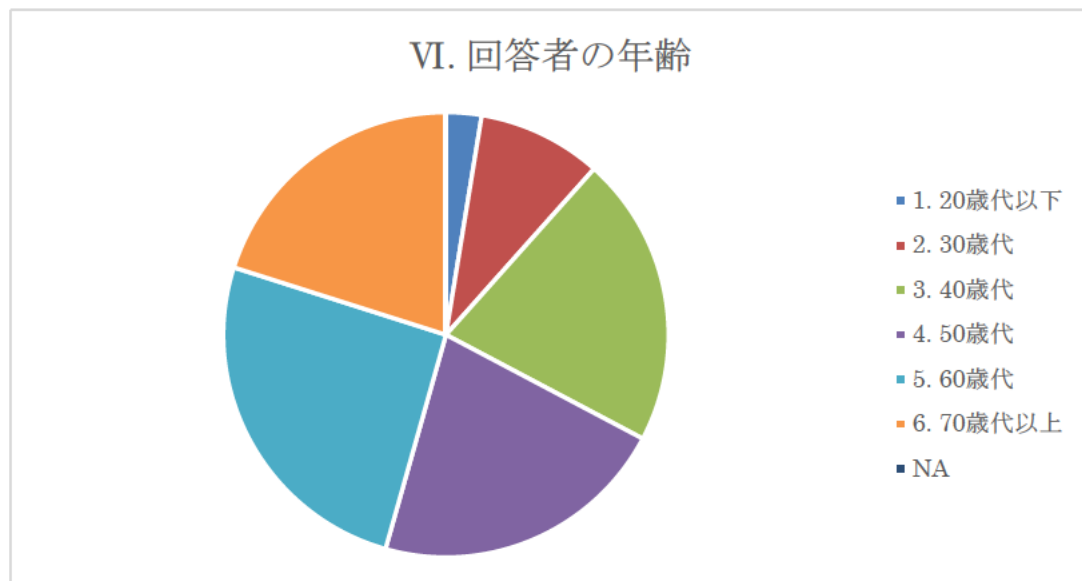
(4) こども食堂の開催頻度についてお答えください。

V. こども食堂の開催頻度		回答者数	回答者率
1.	ほぼ毎日	18	4.6
2.	週 1～2 回程度	41	10.6
3.	月 2 回程度	70	18.0
4.	月 1 回程度	201	51.8
5.	不定期	19	4.9
6.	その他	39	10.1
	回答無	0	0.0
	合計	388	100.0



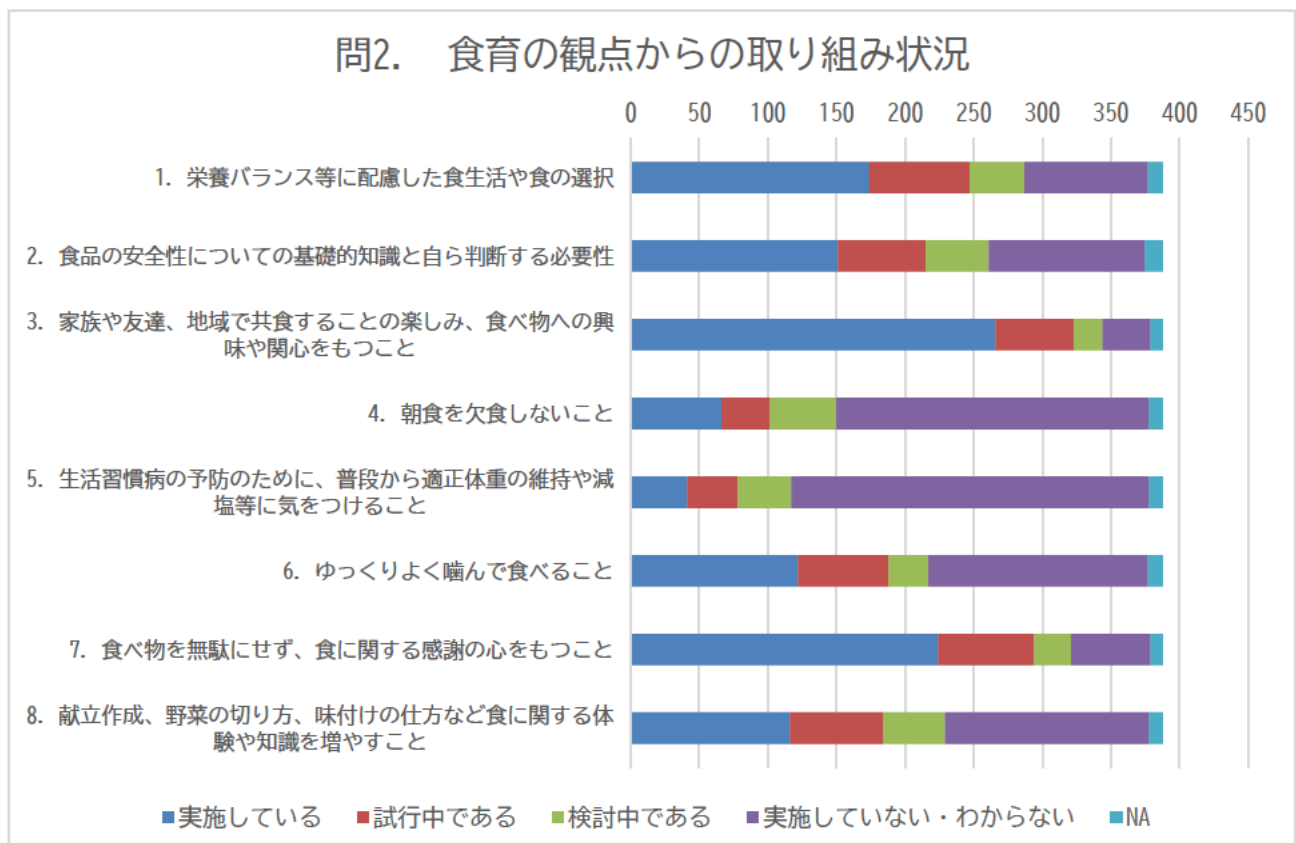
(5) 貴方(回答者)の年齢についてお答えください。

VI. 回答者の年齢	回答者数	回答者率
1. 20 歳代以下	10	2.6
2. 30 歳代	35	9.0
3. 40 歳代	82	21.1
4. 50 歳代	84	21.6
5. 60 歳代	99	25.5
6. 70 歳代以上	78	20.1
回答無	0	0.0
合計	388	100.0



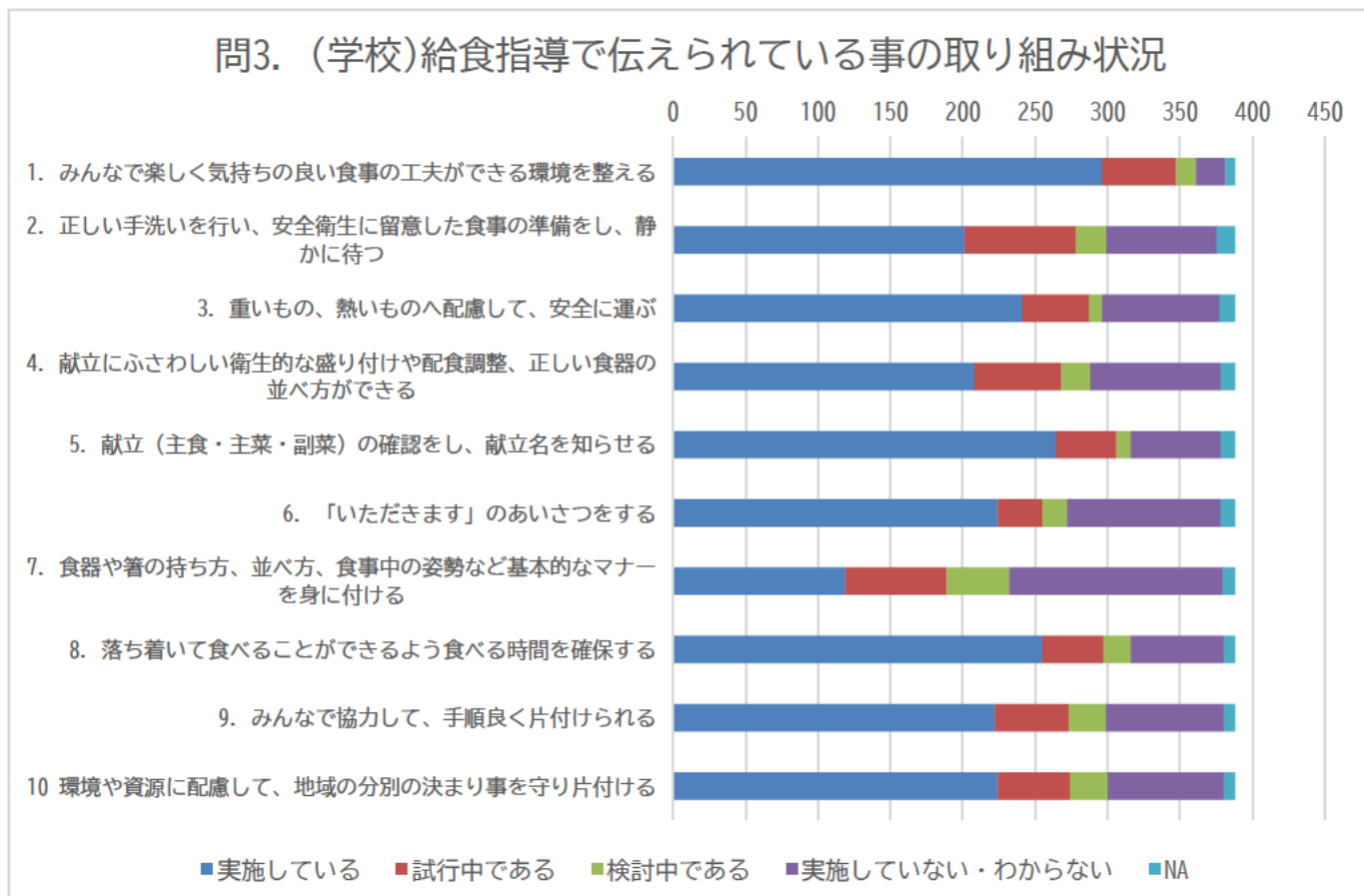
問 2 以下に、食育の観点から伝えたいことを示しました。貴団体が運営するこども食堂では、これらの取り組み状況はいかがですか。貴方が直観的に該当すると思うもの 1 つに〇をつけてください。

- (1) 栄養バランス等に配慮した食生活や食の選択について伝える
- (2) 食品の安全性についての基礎的知識と自ら判断する必要性について伝える
- (3) 家族や友達、地域で共食することの楽しみ、食べ物への興味や関心をもつよう伝える
- (4) 「朝食を欠食しない」ことを伝える
- (5) 生活習慣病の予防のために、普段から適正体重の維持や減塩等につけることを伝える
- (6) ゆっくりよく噛んで食べるよう伝える
- (7) 食べ物を無駄にせず、食に関する感謝の心をもつことを伝える
- (8) 献立作成、野菜の切り方、味付けの仕方など食に関する体験や知識を増やすことを伝える



問 3 以下に、(学校)給食指導で伝えられている事を示しました。貴団体が運営することも食堂では、これらの取り組み状況はいかがですか。

- (1) みんなで楽しく気持ちの良い食事の工夫ができるよう環境を整える
- (2) 正しい手洗いをを行い、安全衛生に留意した食事の準備をし、静かに待つ
- (3) 重いもの、熱いものへ配慮して、安全に運ぶようにする
- (4) 献立にふさわしい衛生的な盛り付けや配食調整、正しい食器の並べ方ができるようにする
- (5) 献立（主食・主菜・副菜）の確認をし、献立名を知らせる
- (6) 「いただきます」のあいさつをする
- (7) 食器や箸の持ち方、並べ方、食事の姿勢など基本的なマナーを身に付け、楽しい雰囲気の中で会食できるようにする
- (8) 落ち着いて食べることができるよう、食べる時間を確保する
- (9) みんなで協力して、手順良く片付けられるようにする
- (10) 環境や資源に配慮して、地域の分別の決まり事を守り、片付けるようにする



問 5 これまでに生活困窮者等世帯の幼児・学童期からの食育推進・生活習慣改善支援に関わったことがありますか。

VII. 生活困窮者等世帯への関り		回答者数	回答者率
1.	ある	120	30.9
2.	一個人としてはないが聞いたことがある	53	13.7
3.	ない	192	49.5
	回答無	23	5.9
	合計	388	100.0

